

教職員の働き方改革の実践④

早く帰る日・学校閉庁日を設定しています

教職員が、勤務時間に対する意識を高めること、また、心身ともにリフレッシュできるようにするとともに、時間単位での取得も含め年休等の取得を推進し、明るい気持ちで子どもに接することができるようにしています。

早く帰る日 毎週水曜日・8のつく日	緊急で対応することを除いては、午後6時までに退校することを原則としています。
学校閉庁日 毎年8月11日～8月16日	夏季休業中には、学校への訪問者が少ないことを踏まえ、小中学校の完全閉庁を行っています。
留守番電話対応 【電話対応の時間】 水曜日、8のつく日…18:00まで その他の授業日…小学校 18:30まで 中学校 19:00まで	電話対応の時間を設定しました。それ以降の電話については、留守番電話での対応としました。

※緊急の場合の連絡先（24時間対応窓口をご利用ください）
 子供SOS24 0120-0-78310
 岐阜県青少年SOSセンター 0120-247-505
 ヤングテレホンコーナー(警察本部)0120-783-800

教職員の声

- ・早く帰る日があらかじめ決まっているので、仕事を計画的に進める意識が高まったと思います。
- ・子どもたちが学校に来ているときには、有給休暇をとることをどうしても躊躇してしまいます。学校閉庁日で、気持ちよく有給休暇を取得して、リフレッシュできることが嬉しく思います。
- ・会議や明日の授業準備に集中して取り組むことができるようになりました。

教職員の働き方改革の実践⑤

学校は工夫した様々な取組をしています

【会議の効率化】

連絡と協議を区別して会議をするようにしています。また、終了時刻や議題ごとの時間の目安を明らかにして会議を行う工夫をしています。

【私の帰る宣言カード・エイッと帰るカード】

町内のある小学校では、退校時刻の目安を、出勤ボードに貼り付けます。限られた時間の中で、子どもたちのためにできることを考えることで、メリハリのある勤務につながっています。また、「8のつく日」が休休日や学校行事と重なったときには、「エイッと帰るカード」で、自ら早く帰る日を宣言します。



おわりに

垂井町の学校教育の特色は、学校内外問わず、子どもたちの様々な取組に保護者や地域の方々から手厚い支援を受けていることです。垂井町の将来を担う子どもたちを育むため、今後も、心身ともに充実して児童生徒に向き合う「教職員の働き方改革」にご理解・ご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

垂井町教育委員会では

「教職員の働き方改革」に取り組んでいます ～心身ともに充実して児童生徒に向き合うために～

2019年3月 垂井町教育委員会

はじめに

全国的に、様々な業種での「働き方」改革が問題になる中で、教職員の時間外勤務や心身の健康の問題等が報道されています。岐阜県内においても教職員の働き方改革は喫緊の課題とされています。

垂井町教育委員会では、学校とは、子どもたちが元気に楽しく学ぶ場であり、そのためには、教壇に立つ教職員が心身共に充実して児童生徒に向き合うことが何より必要なことと考えています。

そこで、平成30年度は、文部科学省・県の「業務改善加速事業モデル地域」の指定を受けたのを機に、働き方改革に関わる様々な取組を一層進めてきました。



教職員のこれまでの勤務状況

【平成29年度 垂井町小・中学校 教職員の勤務状況】

- 1週間の在校時間は 平均56時間20分（岐阜県 55時間17分）
 小学校：55時間45分（岐阜県 53時間19分） 中学校：59時間2分（岐阜県 58時間25分）
 ※正規の勤務時間は 週5日 38時間45分
 ※1週間には、土日も含む
- 平日1日の時間外の勤務時間は 平均3時間4分（岐阜県 2時間51分）
 小学校：3時間4分（岐阜県 2時間38分） 中学校：3時間5分（岐阜県 3時間12分）
- 休日1日の在校時間は 平均1時間22分（岐阜県 1時間9分）
 小学校：50分（岐阜県 42分） 中学校：2時間26分（岐阜県 1時間50分）
 ◇うち、部活動の時間は 平均 1時間3分（岐阜県 47分）
- 休日に出勤している教職員 55%（岐阜県 40%）
 小学校：54%（岐阜県 37%） 中学校：60%（岐阜県 45%）
- 時間外の勤務が、いわゆる「過労死ライン」の目安となる
 週20時間を超える教職員の割合 32%（岐阜県 31%）
 小学校：24%（岐阜県 21%） 中学校：46%（岐阜県 46%）
 ※時間外の勤務が 週20時間以上≒月80時間以上

「岐阜県における市町村立学校職員の勤務状況調査」の結果より

調査期間：平成29年11月7日から13日

調査対象：市町村(組合)立小学校・中学校・特別支援学校・義務教育学校 550校 9,763名

教職員の働き方改革の目的

- 教職員一人一人が心身ともに健康で充実して仕事に取り組むことで、町内全ての学校の教育力の向上を図ります。
- 教職員一人一人が心にゆとりをもち、じっくりと児童生徒に向き合うことで、児童生徒の健やかな成長を図ります。

教職員の働き方改革の実践①

業務改善アドバイザーの助言を生かしています

業務改善アドバイザーによる研修会を開催しました。また、アドバイザーには、町内のモデル校を実際に観察いただき、助言をいただきました。



「もっといい授業の仕方があるのではないかと悩んで、つい時間が遅くなってしまいます。」
「ノートにコメントを書かないと、子どもたちが喜ばないかと思うと、時間がかかってしまいます。」
「子どもたちが喜ぶような掲示物を作ろうと、凝って作っているうちに遅くなってしまふことが多いように思います。」

業務改善アドバイザーからの助言

「探す時間(人・物・情報)が一番のムダです。」

整理整頓、書類の管理、PCフォルダ整理

【改善例】誰でもすぐに探せる書類の整理・フォルダ整理、整理整頓を全職員で行う時間の確保

「先生方の『自分が納得するまで』を見直しましょう。」

教材・教具の共有化、「5分早く」の意識
執務室と休憩の区別

【改善例】教材室の整理整頓、多くの職員で共有できる教材の開発、退校時間を自己管理する

教職員の声

・子どもたちのために、とことん時間をかけたいことや絶対に手を抜いてはいけないことは、たくさんあります。ただ、効率よくすることやメリハリを付けて取り組むことは大切だと思うので意識していきたいです。

教職員の働き方改革の実践②

スクール・サポート・スタッフを配置しています

平成30年7月より、垂井町内の学校に5名の「スクール・サポート・スタッフ」を配置しています。スクール・サポート・スタッフは、教職員が子どもと向き合う時間を確保するために、事務仕事や環境整備などの補助を行っています。

スクール・サポート・スタッフのサポート内容

- ・文書作成(浄書・コンピューター入力)
- ・印刷(宿題プリント、通信、封筒)
- ・備品整理
- ・各種調査のデータ入力及び処理
- ・各種案内、チラシの仕分け、配付 など

スクール・サポート・スタッフの活用のための工夫

教師は、子どもと過ごす日中は、職員室に滞在する時間も限られます。そこで、依頼書を作成して、サポートをお願いできるようにしています。



教職員の声

- ・教材室がいつもきれいに片付き、必要な教材をすぐに見つけることができるので、じっくり授業の中身にについて考えることができます。
- ・朝、スクール・サポート・スタッフに資料の印刷をお願いすると、放課後には出来上がっていて本当に助かりました。その分、子どもたちと過ごすことができます。
- ・来年度の運動会に向けて、どこに何があるのかが、すぐに分かるように収納することができました。
- ・文書の受付の処理を助けてもらえるので、担当者が文書を早く目に見ることができ、時間の節約になっています。

教職員の働き方改革の実践③

地域の方や保護者の方から支援をいただいています

学校支援ボランティア

「地域ぐるみで子どもを育て、学校教育の一層の充実を図ること」を目的として、学校の要請に応じて地域のボランティアが支援する「学校支援地域本部事業」を行っています。今年で10年目を迎えました。

主な活動

- 学習支援・ふるさと学習としての活動
 - ・本の読み聞かせ
 - ・伝統芸能の指導・補助(半兵衛音頭、雅楽の鑑賞)
 - ・体験学習の指導、補助(職場体験学習、生け花、昔の道具やおもちゃ体験・モリアオガエルの観察、野菜作り、茶摘み、田植え等)など
- 部活動やクラブ活動
 - ・専門的な技能指導、補助 など
- 教育環境を整える活動
 - ・グラウンドの環境整備(草刈り、整地)
 - ・学校花壇、学校菜園の管理
 - ・資源回収への協力 など
- 子どもの安全を見守る活動
 - ・登下校の安全見守り など



部活動

子どもたちの心身の健康を守り、豊かな生活を保障するためにも、土日のいずれかを部活動休養日としています。また、外部コーチの指導や保護者クラブによる活動を推進することで、部活動顧問の負担も軽減しています。



教職員の声

・部活動の担当種目が未経験の私にとって、外部コーチに練習メニューや試合の采配などのアドバイスをいただけることが、本当にありがたいです。子どもたちにとっても、専門的な指導を受けられる機会となるので、とても良いと思います。

コミュニティ・スクール



府中小・岩手小・北中校区では、平成30年4月より、地域・家庭・学校が目標を共有し、一緒に子どもたちを育てていく「コミュニティ・スクール」に取り組んでいます。

地域や保護者の方の声

- ・子どもが喜んでくれる顔がうれしい。顔を覚えてくれ、声をかけてくれるとさらにうれしい。
- ・子どもは地域の宝なので、できる限りの協力をしたい。
- ・ボランティアをすることによって、学校に来やすくなった。

【学校支援ボランティアに関するQ&A】

- Q:「何かできることから始めたい」と思うのですが、どこに連絡するとよいですか。
A:教育委員会、もしくは各学校(教頭)へご連絡ください。学校から、お便りをお願いすることもあります。
- Q:人材バンクなどに登録できますか。
A:登録は、教育委員会や小・中学校で登録できます。その際には、万が一に備えて、保険に入ってください。それぞれのお立場で得意分野をいかして活動いただければと思います。なお、人材バンクは、教育委員会で集約しています。